

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成23年2月10日
【四半期会計期間】	第18期第3四半期（自平成22年10月1日至平成22年12月31日）
【会社名】	株式会社日本一ソフトウェア
【英訳名】	Nippon Ichi Software, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 北角 浩一
【本店の所在の場所】	岐阜県各務原市蘇原月丘町3丁目17番
【電話番号】	058 - 371 - 7275（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 世古 哲久
【最寄りの連絡場所】	岐阜県各務原市蘇原月丘町3丁目17番
【電話番号】	058 - 371 - 7275（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 世古 哲久
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期 第3四半期連結 累計期間	第18期 第3四半期連結 累計期間	第17期 第3四半期連結 会計期間	第18期 第3四半期連結 会計期間	第17期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 12月31日	自平成22年 4月1日 至平成22年 12月31日	自平成21年 10月1日 至平成21年 12月31日	自平成22年 10月1日 至平成22年 12月31日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(千円)	1,301,193	1,106,906	329,758	410,923	2,123,139
経常利益又は経常損失( ) (千円)	130,355	35,751	179,425	36,616	232,780
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失( )(千円)	231,213	8,730	252,641	30,044	332,880
純資産額(千円)	-	-	861,035	709,466	764,232
総資産額(千円)	-	-	2,011,201	1,822,983	2,020,344
1株当たり純資産額(円)	-	-	41,193.91	33,845.35	36,562.65
1株当たり四半期純利益又は1株 当たり四半期(当期)純損失 ( )金額(円)	11,063.10	416.71	12,086.98	1,433.30	15,927.30
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	-	-	42.8	38.9	37.8
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	91,138	157,101	-	-	68,810
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	106,868	62,379	-	-	36,943
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	51,697	52,653	-	-	40,862
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	-	-	487,199	540,446	526,092
従業員数(人)	-	-	102	108	99

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第18期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第17期、第17期第3四半期連結累計期間、第17期第3四半期連結会計期間、第18期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数（人）	108	(29)
---------	-----	------

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の当第3四半期連結会計期間平均雇用人員であります。（1日8時間換算）

### (2) 提出会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数（人）	76	(19)
---------	----	------

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の当第3四半期会計期間平均雇用人員であります。（1日8時間換算）

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比(%)
コンシューマ事業(千円)	128,114	-
合計(千円)	128,114	-

- (注) 1. 金額は、製造原価によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. コンシューマ事業の金額は製造委託製品仕入高を含んでおります。

#### (2) 受注実績

当社グループは、受注生産は行っておりません。

#### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比(%)
コンシューマ事業(千円)	362,667	-
モバイル事業(千円)	6,854	-
アミューズメント事業(千円)	9,662	-
その他事業(千円)	31,740	-
合計(千円)	410,923	-

- (注) 1. 前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント	194,953	59.1	215,379	52.4
Tecmo Koei America Corporation	60,598	18.4	36,519	8.9

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

### （1）業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、政府の緊急経済対策等による企業業績の改善や新興国を中心とする海外需要の拡大により、若干の改善傾向が見られたものの、失業率の高止まりやデフレ傾向の強まりにより、景気回復への動きが足踏み状態にあり、先行きの不透明な経済状況が続いております。

当社が属しておりますゲーム業界におきましても、消費者の低価格志向や購買基準の厳格化が続いており、依然として厳しい事業環境となっております。

コンシューマゲーム業界におきましては、次世代ゲーム機の発売を見込んだ買い控え傾向の強まりに加え、現行のハードウェアの購買需要が一服した結果、ソフトウェア、ハードウェアともに市場規模は縮小いたしました。モバイルゲーム業界におきましては、Android OS搭載端末が各社から相次いで発売され、スマートフォンが市場でのシェアを大きく拡大するとともに、ソーシャルアプリや電子書籍等、高機能端末の普及によるコンテンツの多様化が急速に進んでおります。アミューズメント業界におきましては、家庭用ゲーム機・携帯電話等の高機能化、消費低迷等の影響により、若年層を中心に集客率が低迷する一方、メダルゲームがシニア層の関心を集めるなど、顧客層の変化が生じております。

このような状況のなかで、当社グループにおきましては、コンシューマ事業では、国内においては2タイトル、海外においては他社ライセンス商品を含む4タイトルを発売いたしました。モバイル事業におきましては、これまで運営してまいりましたアドベンチャーゲーム専用サイトを既存の総合ゲームサイトに統合し、経営資源の集中化を図るとともに、スマートフォン向けアプリケーションの開発体制の充実に注力してまいりました。アミューズメント事業におきましては、アミューズメント施設の運営等を行い、イベントの開催等による集客率の向上を図ってまいりました。その他事業におきましては、オンラインショップの運営、グッズの製作・販売等を行うとともに、イベントへの出展による認知度の向上と当社ブランド力の強化を進めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高410,923千円（前年同期比24.6%増）、営業利益42,839千円（前年同期は177,356千円の営業損失）、経常利益36,616千円（前年同期は179,425千円の経常損失）、四半期純利益30,044千円（前年同期は252,641千円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

### （コンシューマ事業）

コンシューマ事業におきましては、国内外合わせ全6タイトルの発売を行いました。

国内市場においては、PlayStation Portable専用ソフトとして『ファントム・ブレイブPORTABLE』、『クリミナルガールズ』を発売し、当初計画を上回る販売本数を達成いたしました。また当第4四半期に発売を予定しております『魔界戦記ディスガイア4』について、商品の認知度を高めるための広報施策を積極的に展開してまいりました。

海外市場においては、北米市場向けにはPlayStation Portable専用ソフトとして『Z.H.P: Unlosing Ranger VS Darkdeath Evilman』（邦題：『絶対ヒーロー改造計画』）、欧州市場向けにはPlayStation 3専用ソフト『Atelier Rorona: The Alchemist of Arland』（邦題：『ロロナのアトリエ～アーランドの錬金術士～』）等の4タイトル（うち1タイトルは北米市場で発売したタイトルと重複）を発売・配信し、海外市場での販売展開を拡大するとともに、ダウンロード型配信タイトルの充実に努めてまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高362,667千円、営業利益84,424千円となりました。

### （モバイル事業）

モバイル事業におきましては、アドベンチャーゲーム専用サイト「日本一アドベンチャー」を既存の総合ゲームサイト「日本一GAMES」へ統合し、顧客の一本化と経営資源の集中化を図りました。また、拡大するスマートフォン市場への対応として、『魔界戦記ディスガイア』を題材としたスマートフォンアプリの開発体制の強化にも注力してまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高6,854千円、営業利益1,435千円となりました。

(アミューズメント事業)

アミューズメント事業におきましては、アミューズメント施設の運営を中心に事業を展開してまいりました。具体的には、アミューズメント施設2店舗の運営を行い、広告配布等の活動により、集客率の向上を図ってまいりました。その結果、当事業における当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高9,662千円、営業損失2,332千円となりました。

(その他事業)

その他事業におきましては、国内外におけるオンラインショップの運営、グッズ販売等を行ってまいりました。国内市場においては、当社ライセンス商品に関連したグッズの製作・販売を行うとともに、「秋葉原電気外祭り」、「コミックマーケット79」への出展等、当社の認知度の向上へと繋がるイベントへの参加を積極的に行なってまいりました。海外市場においては、アニメ『PandraHearts』、『Our Home's Fox Deity』（邦題：『我が家のお稲荷さま。』）についてDVDのリリースを開始し、ゲーム販売に並ぶ新たな収益源の確立に努めてまいりました。

その結果、当事業における当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高31,740千円、営業利益6,943千円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,822,983千円となり、前連結会計年度末に比べ197,361千円の減少となりました。

主な流動資産の増減は、現金及び預金の増加（前連結会計年度末に比べ14,353千円の増加）、受取手形及び売掛金の減少（前連結会計年度末に比べ、365,048千円の減少）、仕掛品の増加（前連結会計年度末に比べ145,570千円の増加）等によるものであります。

主な固定資産の増減は、投資有価証券の増加（前連結会計年度末に比べ30,163千円の増加）等によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債は1,113,517千円となり、前連結会計年度末に比べ142,594千円の減少となりました。

主な流動負債の増減は、買掛金の減少（前連結会計年度末に比べ81,260千円の減少）等によるものであります。

主な固定負債の増減は、長期借入金の減少（前連結会計年度末に比べ60,173千円の減少）等によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は709,466千円となり、前連結会計年度末に比べ54,766千円の減少となりました。

主な純資産の増減は、利益剰余金の減少等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は540,446千円となり、前連結会計年度末に比べ14,353千円の増加となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は146,706千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益28,135千円、売上債権の減少額157,621千円、たな卸資産の増加額47,315千円、仕入債務の減少額25,023千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は10,908千円となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出75,522千円、投資有価証券の売却による収入65,881千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は831千円となりました。これは主に、短期借入金の純増加額10,000千円、長期借入金の返済による支出9,169千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	68,000
計	68,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,252	21,252	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は単元持株 制度は採用して おりません。
計	21,252	21,252	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成23年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

#### (2)【新株予約権等の状況】

旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権(ストックオプション)に関する事項は次のとおりであります。

平成17年3月11日臨時株主総会決議に基づく平成18年2月17日取締役会決議

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成22年12月31日)
新株予約権の数(個)	15
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	15
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株につき 10,000
新株予約権の行使期間	平成20年4月1日から 平成27年2月28日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 10,000 資本組入額 5,000
新株予約権の行使の条件	1. 新株予約権の権利行使時において当社の取締役及び従業員であることを要する。 2. 対象者の相続人による本新株予約権の行使は認められない。 3. その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結する「新株予約権付与契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1. 平成23年1月31日現在、権利行使により新株発行予定数は15株となっております。なお、今後においても除外理由(退職等)に基づき、表中の付与対象者数及び発行予定数が減少することがあります。
2. 新株予約権にかかる株主総会決議日以降、当社が株式分割または株式併合を行う場合、当該基準日の翌日において次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数を切り上げる。  
調整後行使価額 = 調整前行使価額 × (1 ÷ 株式分割(または株式併合))の比率)
3. 新株予約権にかかる株主総会決議日以降、当社がこの行使価額を下回る価額による新株の発行が行われる場合(ただし、新株予約権の行使による場合を除く)または自己株式を処分するときは、次の算式(コンバージョン・プライス方式)により調整される。調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。また、行使価額の調整が行われた場合には、当社は、調整後直ちに被付与者に対し、その旨ならびにその事由、調整後の行使価額及び適用の日を通知する。  
調整後行使価額 = 
$$\frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$
- なお、上記株式数において、「既発行株式数」とは当社の発行済み株式総数から当社の保有する自己株式数を控除した数とし、また自己株式を処分する場合には、「新発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。
4. 新株予約権にかかる株主総会決議日以降、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、資本減少を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとする。
5. 新株予約権1個につき目的となる株式の数は1株であります。
6. 平成17年2月24日の取締役会決議により、平成17年4月1日付で1株を20株とする株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本繰入額」が調整されております。

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づく新株予約権（ストックオプション）に関する事項は次のとおりであります。

平成18年6月29日定時株主総会決議に基づく平成18年7月21日取締役会決議

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成22年12月31日)
新株予約権の数(個)	673
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	673
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株につき 35,000
新株予約権の行使期間	平成21年8月1日から 平成28年7月31日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 35,000 資本組入額 17,500
新株予約権の行使の条件	1. 新株予約権の権利行使時において当社の取締役・監査役及び従業員または子会社の取締役及び従業員であることを要する。 2. 対象者の相続人による本新株予約権の行使は認められない。 3. その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結する「新株予約権付与契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 1. 平成23年1月31日現在、退職等により新株発行予定数は673株となっております。なお、今後においても除外理由（退職等）に基づき、表中の付与対象者数及び発行予定数が減少することがあります。

2. 新株予約権にかかる株主総会決議日以降、当社が株式分割または株式併合を行う場合、当該基準日の翌日において次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数を切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \left( 1 \div \text{株式分割（または株式併合）の比率} \right)$$

3. 新株予約権にかかる株主総会決議日以降、当社がこの行使価額を下回る価額による新株の発行が行われる場合（ただし、新株予約権の行使による場合を除く）または自己株式を処分するときは、次の算式（コンバージョン・プライス方式）により調整される。調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。また、行使価額の調整が行われた場合には、当社は、調整後直ちに被付与者に対し、その旨ならびにその事由、調整後の行使価額及び適用の日を通知する。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

なお、上記株式数において、「既発行株式数」とは当社の発行済み株式総数から当社の保有する自己株式数を控除した数とし、また自己株式を処分する場合には、「新発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

4. 新株予約権にかかる株主総会決議日以降、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、資本減少を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとする。

5. 新株予約権1個につき目的となる株式の数は1株であります。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年10月1日～ 平成22年12月31日		21,252		241,910		231,910

(6) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成22年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

平成22年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 290		
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,962	20,962	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式			
発行済株式総数	21,252		
総株主の議決権		20,962	

【自己株式等】

平成22年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社 日本一ソフトウェア	岐阜県各務原市蘇原月丘 町3丁目17番	290		290	1.36
計		290		290	1.36

## 2【株価の推移】

### 【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	44,000	53,000	34,600	32,800	33,000	30,850	30,000	32,500	42,700
最低(円)	31,700	30,500	31,100	30,150	27,850	27,810	27,000	26,010	29,600

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQにおけるものであります。

## 3【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については、あずさ監査法人の四半期レビューを受け、当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって有限責任 あずさ監査法人となっております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	540,446	526,092
受取手形及び売掛金	95,255	460,304
商品及び製品	17,849	28,072
仕掛品	229,139	83,568
繰延税金資産	36,996	42,240
その他	56,644	24,268
流動資産合計	976,332	1,164,546
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	373,598	390,246
機械装置及び運搬具(純額)	2,025	3,247
土地	172,746	172,746
その他(純額)	40,597	43,202
有形固定資産合計	588,967	609,443
無形固定資産		
のれん	6,801	20,770
その他	17,504	23,689
無形固定資産合計	24,306	44,459
投資その他の資産		
投資有価証券	206,627	176,463
その他	26,751	43,231
貸倒引当金	-	17,800
投資その他の資産合計	233,378	201,894
固定資産合計	846,651	855,797
資産合計	1,822,983	2,020,344

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	50,919	132,180
短期借入金	599,600	590,000
1年内返済予定の長期借入金	40,008	40,008
未払金	73,064	64,639
未払法人税等	23,053	18,197
賞与引当金	22,528	26,770
売上値引引当金	61,292	84,912
その他	41,335	39,595
流動負債合計	911,801	996,305
固定負債		
長期借入金	193,251	253,424
退職給付引当金	8,176	5,701
その他	289	681
固定負債合計	201,716	259,806
負債合計	1,113,517	1,256,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	241,910	240,860
資本剰余金	231,910	230,860
利益剰余金	354,716	367,615
自己株式	16,870	16,870
株主資本合計	811,665	822,464
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,451	4,099
為替換算調整勘定	93,747	54,132
評価・換算差額等合計	102,199	58,231
純資産合計	709,466	764,232
負債純資産合計	1,822,983	2,020,344

( 2 ) 【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	1,301,193	1,106,906
売上原価	862,609	510,306
売上総利益	438,584	596,599
販売費及び一般管理費	<sub>1</sub> 575,084	<sub>1</sub> 543,477
営業利益又は営業損失 ( )	136,500	53,122
営業外収益		
受取利息	3,051	1,546
受取配当金	1,053	2,632
有価証券売却益	-	67
為替差益	8,374	-
その他	2,955	2,836
営業外収益合計	15,435	7,082
営業外費用		
支払利息	7,442	6,583
為替差損	-	17,509
その他	1,847	360
営業外費用合計	9,289	24,454
経常利益又は経常損失 ( )	130,355	35,751
特別利益		
債務免除益	-	3,990
特別利益合計	-	3,990
特別損失		
投資有価証券評価損	4,842	-
減損損失	-	<sub>2</sub> 8,480
開発中止損失	80,242	21,122
特別損失合計	85,084	29,603
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ( )	215,440	10,137
法人税等	15,773	18,868
少数株主損益調整前四半期純損失 ( )	-	8,730
四半期純損失 ( )	231,213	8,730

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	329,758	410,923
売上原価	324,687	196,098
売上総利益	5,071	214,825
販売費及び一般管理費	182,428 <sub>1</sub>	171,986 <sub>1</sub>
営業利益又は営業損失( )	177,356	42,839
営業外収益		
受取利息	877	438
受取配当金	622	916
有価証券売却益	-	67
その他	328	288
営業外収益合計	1,828	1,710
営業外費用		
支払利息	2,321	2,193
為替差損	785	5,712
その他	790	27
営業外費用合計	3,897	7,933
経常利益又は経常損失( )	179,425	36,616
特別損失		
減損損失	-	8,480 <sub>2</sub>
開発中止損失	80,242	-
特別損失合計	80,242	8,480
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	259,668	28,135
法人税等	7,026	1,909
少数株主損益調整前四半期純利益	-	30,044
四半期純利益又は四半期純損失( )	252,641	30,044

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	215,440	10,137
減価償却費	53,502	39,123
減損損失	-	8,480
のれん償却額	5,193	7,251
債務免除益	-	3,990
開発中止損失	80,242	21,122
賞与引当金の増減額( は減少)	1,154	3,372
売上値引引当金の増減額( は減少)	3,151	13,941
退職給付引当金の増減額( は減少)	1,501	2,474
受取利息及び受取配当金	4,105	4,179
支払利息	7,442	6,583
為替差損益( は益)	6,588	1,095
投資有価証券評価損益( は益)	4,842	-
投資有価証券売却損益( は益)	-	67
売上債権の増減額( は増加)	338,125	354,692
たな卸資産の増減額( は増加)	118,858	158,822
仕入債務の増減額( は減少)	58,670	72,881
その他	31,731	16,985
小計	120,916	174,532
利息及び配当金の受取額	4,493	3,349
利息の支払額	7,718	6,508
法人税等の支払額	26,552	14,271
営業活動によるキャッシュ・フロー	91,138	157,101
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
出資金の払込による支出	-	200
有形固定資産の取得による支出	23,210	11,834
有形固定資産の売却による収入	-	130
無形固定資産の取得による支出	10,435	3,085
投資有価証券の取得による支出	131,915	115,944
投資有価証券の売却による収入	64,486	70,581
その他	5,793	2,028
投資活動によるキャッシュ・フロー	106,868	62,379
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	85,000	9,600
長期借入金の返済による支出	29,173	60,173
株式の発行による収入	50	2,100
配当金の支払額	4,179	4,180
財務活動によるキャッシュ・フロー	51,697	52,653
現金及び現金同等物に係る換算差額	21,570	27,714
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	14,397	14,353
現金及び現金同等物の期首残高	472,801	526,092
現金及び現金同等物の四半期末残高	487,199	540,446

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	(1) 連結の範囲の変更 第1四半期連結会計期間において、穴喰屋株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めています。 (2) 変更後の連結子会社の数 4社
2. 会計処理基準に関する事項の変更	資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。 なお、この変更に伴う損益に与える影響はありません。

【表示方法の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失」の科目で表示しております。

	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
税金費用の計算	税金費用については、海外連結子会社については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)		前連結会計年度末 (平成22年3月31日)	
有形固定資産の減価償却累計額	211,959千円	有形固定資産の減価償却累計額	198,455千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)																																								
<p>1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。</p> <table border="1"> <tr><td>給与手当</td><td>150,908千円</td></tr> <tr><td>役員報酬</td><td>79,314千円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>28,237千円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>3,457千円</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td>92,844千円</td></tr> </table>	給与手当	150,908千円	役員報酬	79,314千円	賞与引当金繰入額	28,237千円	退職給付費用	3,457千円	広告宣伝費	92,844千円	<p>1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。</p> <table border="1"> <tr><td>給与手当</td><td>153,781千円</td></tr> <tr><td>役員報酬</td><td>72,515千円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>17,827千円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>4,392千円</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td>74,504千円</td></tr> </table> <p>2. 減損損失の内訳は次のとおりであります。 当第3四半期連結累計期間において当社グループは以下の減損損失を計上いたしました。</p> <p>減損損失を認識した資産</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>減損損失額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(株)システムプリズマ 大阪府大阪市</td> <td>-</td> <td>のれん</td> <td>6,717千円</td> </tr> <tr> <td>(株)システムプリズマ 大阪府大阪市</td> <td>事業用 資産</td> <td>工具器具 備品</td> <td>476千円</td> </tr> <tr> <td>(株)システムプリズマ 大阪府大阪市</td> <td>事業用 資産</td> <td>ソフトウェア</td> <td>1,211千円</td> </tr> <tr> <td>(株)システムプリズマ 大阪府大阪市</td> <td>事業用 資産</td> <td>電話加入権</td> <td>75千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>グルーピングの方法</p> <p>当社グループは、主として、セグメント損益を把握する事業単位を基準として資産のグルーピングを行っております。ただし、連結子会社については、規模等を鑑み会社単位を基準として、グルーピングを行っております。なお、遊休資産については独立したキャッシュ・フローを生み出す単位としてそれぞれグルーピングしております。</p> <p>減損損失の認識に至った経緯</p> <p>子会社である株式会社システムプリズマの取得時に検討した事業計画において、当初想定していた収益が見込めなくなったことから減損損失を認識しております。</p> <p>回収可能価額</p> <p>回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため回収可能価額は零又は備忘価額で評価しております。</p>	給与手当	153,781千円	役員報酬	72,515千円	賞与引当金繰入額	17,827千円	退職給付費用	4,392千円	広告宣伝費	74,504千円	場所	用途	種類	減損損失額	(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	-	のれん	6,717千円	(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	工具器具 備品	476千円	(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	ソフトウェア	1,211千円	(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	電話加入権	75千円
給与手当	150,908千円																																								
役員報酬	79,314千円																																								
賞与引当金繰入額	28,237千円																																								
退職給付費用	3,457千円																																								
広告宣伝費	92,844千円																																								
給与手当	153,781千円																																								
役員報酬	72,515千円																																								
賞与引当金繰入額	17,827千円																																								
退職給付費用	4,392千円																																								
広告宣伝費	74,504千円																																								
場所	用途	種類	減損損失額																																						
(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	-	のれん	6,717千円																																						
(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	工具器具 備品	476千円																																						
(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	ソフトウェア	1,211千円																																						
(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	電話加入権	75千円																																						

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)																																								
<p>1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">給与手当</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">53,215千円</td> </tr> <tr> <td>役員報酬</td> <td style="text-align: right;">26,228千円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">5,056千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">1,452千円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td style="text-align: right;">36,386千円</td> </tr> </table>	給与手当	53,215千円	役員報酬	26,228千円	賞与引当金繰入額	5,056千円	退職給付費用	1,452千円	広告宣伝費	36,386千円	<p>1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">給与手当</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">50,981千円</td> </tr> <tr> <td>役員報酬</td> <td style="text-align: right;">23,706千円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">143千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">1,606千円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td style="text-align: right;">18,377千円</td> </tr> </table> <p>2. 減損損失の内訳は次のとおりであります。 当第3四半期連結会計期間において当社グループは以下の減損損失を計上いたしました。</p> <p style="text-align: center;">減損損失を認識した資産</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">場所</th> <th style="width: 25%;">用途</th> <th style="width: 25%;">種類</th> <th style="width: 25%;">減損損失額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(株)システムプリズマ 大阪府大阪市</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">のれん</td> <td style="text-align: right;">6,717千円</td> </tr> <tr> <td>(株)システムプリズマ 大阪府大阪市</td> <td style="text-align: center;">事業用 資産</td> <td style="text-align: center;">工具器具 備品</td> <td style="text-align: right;">476千円</td> </tr> <tr> <td>(株)システムプリズマ 大阪府大阪市</td> <td style="text-align: center;">事業用 資産</td> <td style="text-align: center;">ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">1,211千円</td> </tr> <tr> <td>(株)システムプリズマ 大阪府大阪市</td> <td style="text-align: center;">事業用 資産</td> <td style="text-align: center;">電話加入権</td> <td style="text-align: right;">75千円</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">グルーピングの方法</p> <p>当社グループは、主として、セグメント損益を把握する事業単位を基準として資産のグルーピングを行っております。ただし、連結子会社については、規模等を鑑み会社単位を基準として、グルーピングを行っております。なお、遊休資産については独立したキャッシュ・フローを生み出す単位としてそれぞれグルーピングしております。</p> <p style="text-align: center;">減損損失の認識に至った経緯</p> <p>子会社である株式会社システムプリズマの取得時に検討した事業計画において、当初想定していた収益が見込めなくなったことから減損損失を認識しております。</p> <p style="text-align: center;">回収可能価額</p> <p>回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため回収可能価額は零又は備忘価額で評価しております。</p>	給与手当	50,981千円	役員報酬	23,706千円	賞与引当金繰入額	143千円	退職給付費用	1,606千円	広告宣伝費	18,377千円	場所	用途	種類	減損損失額	(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	-	のれん	6,717千円	(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	工具器具 備品	476千円	(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	ソフトウェア	1,211千円	(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	電話加入権	75千円
給与手当	53,215千円																																								
役員報酬	26,228千円																																								
賞与引当金繰入額	5,056千円																																								
退職給付費用	1,452千円																																								
広告宣伝費	36,386千円																																								
給与手当	50,981千円																																								
役員報酬	23,706千円																																								
賞与引当金繰入額	143千円																																								
退職給付費用	1,606千円																																								
広告宣伝費	18,377千円																																								
場所	用途	種類	減損損失額																																						
(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	-	のれん	6,717千円																																						
(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	工具器具 備品	476千円																																						
(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	ソフトウェア	1,211千円																																						
(株)システムプリズマ 大阪府大阪市	事業用 資産	電話加入権	75千円																																						

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
(千円)	(千円)
現金及び預金	567,199
預入期間が3か月超の定期預金	80,000
現金及び現金同等物	487,199
	現金及び預金
	540,446
	現金及び現金同等物
	540,446

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 21,252株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 290株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	4,180	200	平成22年3月31日	平成22年6月25日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	コンシューマ事業 (千円)	モバイル事業 (千円)	アミューズメント事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	300,519	9,765	9,971	9,502	329,758		329,758
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高							
計	300,519	9,765	9,971	9,502	329,758		329,758
営業利益又は営業損失( )	136,090	3,846	3,912	4,241	131,915	(45,441)	177,356

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	コンシューマ事業 (千円)	モバイル事業 (千円)	アミューズメント事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	1,204,591	33,187	34,430	28,984	1,301,193		1,301,193
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高							
計	1,204,591	33,187	34,430	28,984	1,301,193		1,301,193
営業利益又は営業損失( )	4,806	3,424	17,853	14,858	5,237	(141,737)	136,500

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
コンシューマ事業	PlayStation専用ゲームソフト、PlayStation 2専用ゲームソフト、PlayStation Portable専用ゲームソフト、PlayStation 3専用ゲームソフト、ニンテンドーDS専用ゲームソフト、Wii専用ゲームソフト
モバイル事業	携帯電話用コンテンツ
アミューズメント事業	業務用アーケードゲーム機器、アミューズメント施設運営
その他事業	関連グッズ、関連攻略本

3. 会計処理の方法の変更

前第3四半期連結累計期間

(工事契約に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」3.に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業損失は、コンシューマ事業で12,394千円減少しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日至平成21年12月31日）

	日本（千円）	北米（千円）	計（千円）	消去又は全社 （千円）	連結（千円）
売上高					
（1）外部顧客に対する売上高	228,277	101,481	329,758		329,758
（2）セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,545	146	10,691	(10,691)	
計	238,822	101,627	340,450	(10,691)	329,758
営業損失（ ）	114,140	17,774	131,915	(45,441)	177,356

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）

	日本（千円）	北米（千円）	計（千円）	消去又は全社 （千円）	連結（千円）
売上高					
（1）外部顧客に対する売上高	759,306	541,887	1,301,193		1,301,193
（2）セグメント間の内部売上高 又は振替高	49,050	1,608	50,659	(50,659)	
計	808,356	543,496	1,351,853	(50,659)	1,301,193
営業利益又は営業損失（ ）	27,628	32,866	5,237	(141,737)	136,500

（注）1．国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2．本邦以外の区分に属する主な国又は地域

北米・・・米国

3．会計処理の方法の変更

前第3四半期連結累計期間

（工事契約に関する会計基準）

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」3．に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業損失は、日本で12,394千円減少しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日至平成21年12月31日）

	北米	欧州	計
海外売上高（千円）	72,397	29,084	101,481
連結売上高（千円）			329,758
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	22.0	8.8	30.8

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）

	北米	欧州	計
海外売上高（千円）	431,669	110,217	541,887
連結売上高（千円）			1,301,193
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	33.2	8.5	41.6

（注）1．国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2．本邦以外の区分に属する主な国又は地域

北米・・・米国

欧州・・・イギリス、フランス

3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

1．報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、コンシューマ事業、モバイル事業、アミューズメント事業、その他事業を営んでおり、取り扱う製品・サービスによって、当社及び当社の連結子会社を設置し、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品・サービスを基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「コンシューマ事業」、「モバイル事業」、「アミューズメント事業」及び「その他事業」の4つを報告セグメントとしております。なお、各報告セグメントに含まれる主要品目は、以下のとおりであります。

事業区分	主要製品
コンシューマ事業	PlayStation専用ゲームソフト、PlayStation 2 専用ゲームソフト、PlayStation Portable専用ゲームソフト、PlayStation 3 専用ゲームソフト、ニンテンドーDS専用ゲームソフト、Wii専用ゲームソフト
モバイル事業	携帯電話用コンテンツ
アミューズメント事業	業務用アーケードゲーム機器、アミューズメント施設運営
その他事業	関連グッズ、関連攻略本

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンシューマ事業	モバイル事業	アミューズメント事業	その他事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	997,577	22,001	31,390	55,936	1,106,906	-	1,106,906
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	997,577	22,001	31,390	55,936	1,106,906	-	1,106,906
セグメント利益又はセグメント損失( )	187,325	7,057	6,547	4,865	192,700	(139,577)	53,122

(注)1. セグメント利益の調整額139,577千円は当社管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンシューマ事業	モバイル事業	アミューズメント事業	その他事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	362,667	6,854	9,662	31,740	410,923	-	410,923
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	362,667	6,854	9,662	31,740	410,923	-	410,923
セグメント利益又はセグメント損失( )	84,424	1,435	2,332	6,943	90,470	(47,631)	42,839

(注)1. セグメント利益の調整額47,631千円は当社管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

（固定資産に係る重要な減損損失）

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、子会社である株式会社システムプリズマの事業計画の見直しを行った結果、減損損失を認識し、工具器具備品等の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結会計期間においては、1,763千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、子会社である株式会社システムプリズマの事業計画の見直しを行った結果、減損損失を認識し、のれんの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結会計期間においては、6,717千円であります。

（追加情報）

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

( 1株当たり情報 )

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 33,845.35 円	1株当たり純資産額 36,562.65 円

2. 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期 純損失金額 ( ) 11,063.10 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	1株当たり四半期 純損失金額 ( ) 416.71 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額		
四半期純損失 ( ) (千円)	231,213	8,730
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る四半期純損失 ( ) (千円)	231,213	8,730
期中平均株式数 (株)	20,899	20,952
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期 純損失金額( ) 12,086.98 円	1株当たり四半期 純利益金額 1,433.30 円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額		
四半期純利益又は四半期純損失( )(千円)	252,641	30,044
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益 又は四半期純損失( )(千円)	252,641	30,044
期中平均株式数(株)	20,902	20,962
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月10日

株式会社日本一ソフトウェア  
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 堀 幸造 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 桑原 雅行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社日本一ソフトウェアの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社日本一ソフトウェア及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年2月10日

株式会社日本一ソフトウェア  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 堀 幸造 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 桑原 雅行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社日本一ソフトウェアの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社日本一ソフトウェア及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。